

(学校番号 57) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【見沼小学校】

4月28日		
目標・策		
知識・技能	令和4年度さいたま市学習状況調査において、令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果(国語・算数の知識・理解)を上回る。	⇒ 「スタディタイム」「週末スタディタイム」を設定。ドリルパーク、スタディサブリ等に取り組む時間を確保し、基礎基本の反復・習熟に取り組む。リテラシー向上のためのタブレット相談室(仮称)の設置。学びたい時に学べる自学スペースの設置。
思考・判断・表現	令和4年度さいたま市学習状況調査において、令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果(国語・算数の思考・判断・表現)を上回る。	⇒ STEAMSタイムを中心にプログラミング学習の着実な実践を通して思考力を向上させる(人型ロボットPepper君の活用)。児童が自由に発信できる場として「みぬまチャンネル」を開設。表現力を高めるとともに児童間交流を進める。
主体的に学習に取り組む態度	令和4年度さいたま市学習状況調査において、全国学力・学習状況調査の自校の結果(「国語の勉強は好きですか」「算数の勉強は好きですか」の質問項目に対する肯定的な回答の割合)を上させる。	⇒ リテラシーの向上、見沼小アクティブラーニングスタンダードの確立、自学スペースの設置等を行ない、「自らの興味・関心、課題に応じた学び」「他者と関わり合いながら自らの学びを深める学び」を実現させる。

9月2日			
中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

8月22日	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>国語において、問題の後半になるにつれて無回答率が高くなる。始めから順に解くだけでなく、問題全体を把握してから解くなど、全国学力・学習状況調査のような形式の問題を経験させることも必要である。選択式の問題は無回答率が低く、記述式の問題は無回答率が高い。文字数等、条件を設けて書くという経験を増やす必要がある。記述式の問題でも自分の考えを書く問題では正答率は低くない。相手や目的に応じてなどの条件が加わると正答率が低くなる。相手意識や目的意識を高める学習を行う必要がある。</p> <p>算数において、求め方を答える問題(「言葉と数を使って書きましょう」)で正答率が低い。自分の考えの過程を書いたり伝えたりする力を高める必要がある。また、無回答率が高いことから、答え方(書き方)が分からないため、何も書かずにあきらめてしまうのではないかと。国語とも通じるが、問題場面を正しく理解(想像)できていない(問題文、選択肢ともに)のではないかと。文章や図、表を読んで場面を正しく理解(想像)する活動を多く取り入れる必要がある。</p> <p>理科において、器具の名称、扱い方に課題がみられた。実験・観察等の実体験を通して、繰り返し扱う経験を増やすようにする。また、「思考力・判断力・表現力」を問う問題で正答率が低いことから、教師主体の問題解決型の学習になっているのではないかと。思う。</p> <p>生活習慣等に関する質問紙調査においては、「〇〇の学習が好き」と回答する児童の割合が低い。児童主体の探究的な学びにシフトしていく必要がある。</p>	

2月20日			
さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	<p>「〇〇の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答の割合 「国語」 % () 「算数」 % () 「社会」 % () 「理科」 % () ()内は市平均との差 国語の設問4の回答類型から、文章を読む際に行動や会話の主が誰なのかということをつまみながら読む力を高める必要があると考える。</p>	小4	<p>「〇〇の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答の割合 「国語」 % () 「算数」 % () 「社会」 % () 「理科」 % () ()内は市平均との差 国語の設問3の回答類型から、目的を達成するためにはどの方法が適しているのかを実際に試して確かめるなどの体験的な学習活動を取り入れる必要があると考える。</p>
小5	<p>「〇〇の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答の割合 「国語」 % () 「算数」 % () 「社会」 % () 「理科」 % () ()内は市平均との差 小4においても小5においても小数の減法の計算に課題があることが分かった(同じ問題で同じ誤答を選択している割合が高い)。旧学年の学習内容の反復も効果的であると考える。</p>	小6	<p>「〇〇の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答の割合 「国語」 % () 「算数」 % () 「社会」 % () 「理科」 % () ()内は市平均との差 【内は全国調査との差(同一集団)】 国語の設問1の三の回答類型から、適切に敬語を使うことに課題がみられる。学習したことを生活の中で繰り返し敬語を意図的につくり、知識を活用できるようにする必要があると考える。</p>

2月28日		評価(※)
成果指標に対する達成状況		
知識・技能	6年国語「知識・技能」における学校平均と市平均の差は、R4全国調査では(学校、市)であったが、R4市調査では(学校、市)となり、3学期実施の市調査において、1学期実施の全国調査を上回る結果となった。 ※算数においては、「知識・技能」の比較ができないため、次枠にて学習指導要領の領域等ごとと比較する。	B
思考・判断・表現	6年国語「思・判・表」における学校平均と市平均の差は、R4全国調査では(学校、市)であったが、R4市調査では(学校、市)となり、全国調査の結果を上回った。算数は、R4全国調査とR4市調査を比較すると「数と計算」→、「図形」→、「変化と関係」→、「データの活用」→となり、全国調査の結果を下回る領域等が多かった。	C
主体的に学習に取り組む態度	6年「国語の勉強は好きですか」R4全国: %→R4市 %で。「算数の勉強は好きですか」R4全国: %→R4市 %で。国語において肯定的な回答の割合に伸びがみられたものの、「勉強が好き」と回答する児童の割合が依然低い状態にある。しかし、無回答率については、国語 →、算数 →と、改善の傾向がみられた。	B

3月10日	
次年度への課題と改善策	
知識・技能	今年度、スタディサブリを導入したこともあり、計算ドリルは使用しなかったが、学校評価等で計算ドリルを使用したほうがよいとの意見も多数あったことを受け、スタディサブリと計算ドリルの併用も視野に入れて基礎基本の定着を図っていく。スタディサブリのさらなる活用(・教員自身の使用頻度の向上・スタディログに基づいた個に応じた効果的な支援・スタディサブリ等に取り組む機会の更なる確保等)。
思考・判断・表現	令和4年度に引き続き、Pepperくんを活用したプログラミングの思考を育む学習活動を実践し、相手意識や目的意識を高める。FormsやPowerPoint、「みぬまチャンネル」等を活用した児童間交流を更に促進し、表現力を高める。学校課題研究「対話的な学びを通して考えを深め、問題解決をしようとする児童の育成」を着実に進め、「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業へ。
主体的に学習に取り組む態度	「〇〇の勉強が好き」の肯定的な回答の割合を増やす。教科担任制の継続・発展(教員の専門性の向上)。「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業へ。スタディサブリの活用方法を工夫した基礎基本の定着(「分かる・できる」喜び)。Pepperくんを用いたプログラミング学習や金融経済教育等、体験型学習の充実(児童の興味・関心の高揚)。

※評価
 A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一歩)
 B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)